

ビートトップの飼料化に関する研究

帯広畜産大学畜産衛生学研究部門 准教授 西田武弘

連絡先 E-mail:nishtake@obihiro.ac.jp TEL:0155-49-5455

キーワード:ビートトップ(ビートの地上部)、エコフィード、家畜飼料、未利用資源、TMR飼料

概要 十勝地域で生産されているビート(約3万ha)からは、200万トンのビートと、160万トンのビートトップが生産されている。現在ビートトップは、緑肥としてすきこまれており、その飼料化を試みたところ、チモシーと同等程度の栄養価のあるサイレージを製造する事ができた。このサイレージを使いTMRを製造したところ、嗜好性も良く乳量、乳質等に変化は見られなかった

シーズの特徴

ビートトップを収穫後、細断しビートパルプと混合し水分調整を行い、微生物資材と混合し発酵させた。2か月後に、この発酵飼料を材料として、通常のTMR飼料の粗飼料50%をビートトップ発酵飼料に置き換えた飼料を製造した。このエサを乳牛に給与したところ、嗜好性は良く、通常のTMR飼料を給与した際の乳量や乳質と同等の結果であった。飼料の残留農薬、シュウ酸、硝酸態窒素等の分析値に異常は見られなかった。

本研究では、ビート収穫機にビートタッパーを取りつけ実験用として収穫を行った。今後、ビートトップを利用するには、専用の収穫機の開発が必要となる。



ビートトップの収穫の様子



細断型ロールベアラーによるパッキング



ビートトップ粗飼料を用いたTMR飼料



採食の様子

これまでの活用事例・技術移転

平成22年度エコフィード緊急増産対策事業により、実証試験を行った。

研究者からのメッセージ

エサとしての活用は可能である。収穫機の開発が課題である。

参考情報:平成22年度エコフィード緊急増産対策事業費補助金実績報告書

問い合わせ先:帯広畜産大学地域連携推進センター E-mail:crcenter@obihiro.ac.jp
Tel:0155-49-5771